

# 秋建時報

秋建時報

平成21年7月1日(第1183号)



発行／(社)秋田県建設業協会  
秋田市山王四丁目3番10号  
TEL 018(823)5495  
FAX 018(865)2306

<http://www.a-kenkyo.or.jp>



小暑、大暑と日は過ぎて、今年も半分以上を暮らしてきた。汗をひとふきして、ふと庭をみると、可憐なポピーの花が微風に揺れている。ヒナゲシの花とも言うが、また虞美人草とも言うが、どこか儚い。

「虞美人草」 絵・文：白澤 恵舟

## あきた愛しやの郷づくり事業

会長 菅原 三朗

潟上市商工会では本年度地域を売り込み、活性化させる企画提案型事業として「あきた愛しやの郷づくり事業」に取り組んでいる。「あきた愛しや」という名称は、かつての「むらおこし事業」を通じて首都圏にいる人々に故郷を愛おしむ気持ちを抱いて貰いたいとの願いをこめて命名したものである。

そこで当商工会では豊かな風土で採れる様々な農産物・特産品などの食資源と、郷土の偉人「石川理紀之助翁」(1848～1915年)の農業振興や救荒策、更には「経済の言葉十四箇条」と言う文化資源を生かして、農商工連携による地域経済の振興を図っていこうと言うものである。

事業では潟上市民をはじめ、当地を離れた人々に故郷の魅力を再認識していただくと共に、潟上市を愛おしいと思う気持ちを醸成してもらえよう、石川翁についての知識を問う「石川理紀之助翁検定」と「ふるさと産品推奨事業」を実施し、観光振興と物産振興の両面で「地域力向上」を図っていくことを目的としている。

「石川理紀之助翁検定」については、学識者を中心として翁の功績を小冊子、若しくはテキストとして作成し検定試験の基本教材として活用する。実施に当たっては主都圏ふるさと会・秋田県種苗交換会・地域住民学生等呼びかける。特に市内の小中学生を検定の受験対象に想定しており、地元の歴史を学んで郷土を愛する心をはぐくんでほしいとの願いが込められている。

検定は11月下旬に1泊2日の日程で行う計画で、初日は石川翁が農業経営を実践した「草木谷」などを巡ったあと、地元

研究者が功績などを解説する。2日目にペーパーテストを実施し、合格者に「石川理紀之助翁伝承士」の認定証を交付する。

「ふるさと産品推奨事業」では、潟上市の特産品(酒・漬物・佃煮等)と農産品(米・果樹等)を四季折々で組み合わせた「潟上市ふるさと便」を潟上ブランドとして県内外に広くPRして販路開拓支援の機会として実施していく。

これらの事業を通じ、地元住民、県外在住者それぞれが地域を愛する思いを周辺にPR(伝承)してくれることで、全国に“潟上は愛しいところだなあ”というファンづくりが図られる。又個店では対応が困難な地域産品のセット販売に必要な流通システムを確立することが出来る。

観光振興と物産振興の両輪によるPRを通じて、潟上市は「愛しやの郷」と思える故郷づくりと地域のブランド化による地域力の向上につながることを期待されている。

# 高校教員との人材確保・育成推進懇談会を開催

## 学校と業界との協力によるインターンシップの継続を

県協会では、平成21年5月14日(木)秋田ビューホテルにおいて、人材確保・育成推進懇談会を開催した。懇談会には県立工業高校等の建設関連学科担当教諭や、国、県を含めた人材協委員ら25名が出席。初めに、人材確保・育成推進協議会会長の川上洵秋田大学工学資源学部教授が、「昨年来の金融危機、新インフルエンザの発生等、地球のグローバル化に伴い世界の流れが早くなってきている。建設業界にあってはあいかかわらず厳しい状況だが、経済浮揚に連動し公共事業も活発になることを願っている。」とあいさつ。引き続き協議事項に入り、21年度新規学卒者採用状況や、22年3月高校別卒業予定者進路希望状況及び研修会アンケート等について事務局から説明があった。その中で新規学卒者研修会アンケート結果では入職者の就職活動の特徴として「自分でハローワークのHPから探し就職活動した」「両親、親戚、友人、先輩からの紹介」など学校からの紹介だけでなく求人情報源が多様化・分散化していることやイ

ンターンシップへの未経験者が多いのが注目された。その他インターンシップの仕組みと流れをより明確・文書化するため「インターンシップ規程」を策定したこと、今年度から新たに行う「建設系高校生特別教育支援モデル事業」についても説明した。

### 意見交換

#### ◎求人情報について

学校側＝企業のHPを見ると規模や概要等を個人で知ることが出来るのでハローワークを通さないというのわかる。求人はハローワークへ出すより欲しい生徒の条件を直接学校へ企業から出して欲しい。

業界側＝企業としては地元の人を採用したい。学校側から就職希望者の出身地を公表してもらえたら採用しやすくなる。

行政側＝求人は高校は6月20日から解禁、7月1日以降公開、9月16日から選考というのが申し合わされている。ベースはハローワークの求人票になっているので企業も学校もルールを守ってほしい。

会長＝就職活動の開始時期については前倒し傾向にあり疑問を感じる。ハローワーク側で情報を収集して学校側に流し、学校⇄ハローワークの関係を実りあるものにして欲しい。

#### ◎インターンシップについて

学校側＝今までに非協力的な企業もあり規程の通りお願いしてもうまくいくのか懸念される。工業高校の枠を含め、インターンシップは学校から企業へお願いすることで成り立っている。学校の中だけでは育たない中で現場ですごすことは生徒にとって大きな糧になる。学校側はあくまで「お願いする」というスタンスで謙虚な気持ちを持たなければならない。非協力的な扱いを受けたのは生徒の態度等にも問題があったのかもしれない。

企業側＝企業としてはいい現場を見せたいというのが本音であるが、断る理由としての本当の理由は「危ない(現場での事故)」ということがあげられる。いいかげんな態度ではなく情熱のある生徒を厳選した本気で建設業を見たい学びたいという生徒であれば受入を拒むことはない。地域貢献として協力していきたい。

行政側＝入札参加資格審査要件で地域活動社会貢献活動についてインターンシップが加点されることがアナウンスされている。会長＝実態を知ってもらうのがインターンシップの効果。入職してすぐに離職してしまうことを防ぐためにも、やがて社会人となるガイドとして活用していくことが大事である。



## 建災防秋田県支部

# 17事業場 10個人を表彰

## 秋田県建設業安全衛生大会

平成21年度秋田県建設業安全衛生大会が、6月26日秋田市文化会館で開催され、建設業関係者ら約190名が参加した。

大会の冒頭、主催を代表し菅原三朗建災防秋田県支部長が挨拶。「本県建設業における労働災害は関係各位の努力により過去最少となったが、死亡災害は6人の尊い生命が失われる結果となり、より一層の自主的な安全衛生管理が求められている。今後も、安全衛生に関する情報を共有し、理解を深め、時代、状況に即した労働災害防止活動が重要である」と述べた。続いて表彰式が行われ、安全衛生管理、推進活動等に多大な功績のあった17事業場と10個人が表彰された。

表彰式終了後は「安全衛生の現状と課題」と題し鈴木秋田労働局労働基準部安

全衛生課長より基調講演が行われた。

また、記念講演では落語家で東京都町田市議会議員である三遊亭らん丈氏が「余裕があれば事故には遭わない」ユーモアが肝腎と題し講演、会場を笑いに包んだ。

終わりに高橋秋田県鷹連合会長による力強い安全の誓いが朗読され、参会者一同更なる安全衛生水準の向上を誓った。

受賞者は次のとおり。

### ▽事業場賞

(有)黒沢建設(鹿角市)、(株)米村組(鹿角市)、成田建設(株)(三種町)、(株)コンノ土木(能代市)、(株)大雄建設(潟上市)、(株)佐々木土建(由利本荘市)、万六建設

(株)(仙北市)、(株)門脇組(仙北市)、古谷建設工業(株)(横手市)、(株)高修興業(湯沢市)、(有)柴田建設工業(湯沢市)、古閑電気工事店、(有)大澤塗装店(上小阿仁村)、(株)刀根商店(秋田市)、(有)堀川左管工事所(由利本荘市)、朝日建設(株)(北秋田市)、(名)保坂工業(秋田市)

### ▽功労賞

藤原正夫(米代電機工業(株))大館市

### ▽功績賞

鈴木定功((株)半田工務店)横手市、佐藤武彦((株)山口産業)鹿角市

### ▽職長賞

小畑清志(花岡土建(株)・大館市)、松沢正一((株)オオタベ・大館市)、藤原広成((株)中山組・秋田市)、高橋啓二(木内組土建(株)・由利本荘市)、金野房雄(大信太工業(株)・三種町)、吉永薫((株)小西工業・横手市)、菅原恭一((有)菅原組・大館市)



# 秋田水風景

文と写真／加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター  
取材・執筆歴／旅の手帖、WoodyLife、ペンチャー・リンク、郷、ある他  
海外取材歴／ドイツ、アメリカ、ブラジル  
写真塾・写楽 主宰／写真教室、撮影ツアー企画等

Vol. 3

## 川原毛大湯滝

【かわらげおのおゆだき】

湯沢市・高松字高松沢



湯沢市の湯沢横手道路須川インターで降りて、泥湯温泉方面を目指してクルマを走らせてみよう。三途川渓谷にかかる三途川橋を渡ってすぐに右に分岐する林道に分け入る。林道終点の駐車場にクルマを止めて、そこから緩やかに

に下る山道を徒歩15分ほど。やがて、木々のあいだから滝の瀬音が聞こえてきて、姿容の美しい滝が現われる。それが川原毛大湯滝だ。流れに勢いがあるのか、岩盤を伝って流れ落ちる筋の他に、ちょうど温泉の打たせ湯のように、中空を流れ落ちる筋もある。

滝めぐりや滝の写真愛好カメラマンであればぜひとも一枚は撮っておきたい滝だが、この川原毛大湯滝の最大の特徴は、その名の通り、流れが水ではなく湯であることだ。この滝の上流には、かつて硫黄鉱山もあった火山地形の「川原毛地獄」がある。そこから天然温泉の硫黄

泉の湯が流れ出しているというわけだ。つまり、川原毛大湯滝の滝壺は、100%天然温泉の露天風呂ということになる。地中から湧き出してから滝壺に流れ落ちるまでにやや距離があるため、湯温はそのときどきの気温に影響されて、おおむね、7月上旬から9月中旬あたりまでがちょうどいい。湯加減となる。その滝壺がまた、わざわざ眺めたかのように、露天風呂として浸かるのに深さも広さもジャストサイズ。中空を流れ落ちる筋にカラダを当てれば、居ながらにして打たせ湯も楽しめちゃうのだ。かつて、川原毛大湯滝は、訪れる人もまばらで、知る人ぞ知る超穴場的な存在だった。その「秘境ムード」が逆に注目を浴びて全国版のテレビなどにも取り上げられるようになり、今ではなかなかのにぎわい。ムカシはみんな素っ裸で天然露天風呂を楽しんでいたものだが、最近では地元観光課でも水着着用を推奨しているようだ。ハダカで入ると周りから白い目で見られるだろうか。そのほうが似つかわしいように思われるのだけだ。

### 青年会

## 大沼会長が再任される 第28回定時総会

6月9日、秋田県建設青年協議会（大沼武彦会長）は秋田ビューホテルにて第28回定時総会を開会。会員47名が出席した。

総会冒頭、大沼会長は会員の出席に謝辞を述べ、「20年後、30年後も建設業を続けていくという希望を得るために全国や東北の仲間と共に予定価格の事後公表や低入札価格調査のラインを引き上げを訴えていきたい」と展望を示し、利益を社会に還元し、優良企業としてアピールしていきたいと挨拶。続いて、大沼会長が議長を務め議事に入った。

議事では平成20年度事業報告・決算を承認、平成21年度事業計画・予算（案）を決定。また、任期満了に伴う役員改選では、大沼武彦会長（株）大沼組・由利本荘市）、大和介副会長（大和建設（株）・美郷町）が再任、新副会長に米村茂理事（株）米村組・鹿角市）が就任した。

総会終了後は、秋田県建設交通部から神居勝康次長、菊地嘉武建設管理課長、谷藤眞吾技術管理室長を講師に招き、秋田県の重点施策や予算の概要、各種の計画・事業について講話が行われた。



### アス合協

## 加藤会長再任、 新副会長に小原将司郎委員 第28回定時総会

6月4日、秋田ビューホテルにて秋田県アスファルト合材協会第28回定時総会が開催され、会員を始め関係者35名が出席。来賓に秋田県建設交通部から谷藤眞吾技術管理室長、伊藤雅樹道路課政策監、加藤俊章日本アスファルト合材協会東北連合会常務理事が出席した。

冒頭に登壇した加藤会長は「安定的に合材を供給している我々は、社会的に評価されなくてはならないが現状は厳しい」と述べ、会員の互助精神により現在の難局を乗り越え、よりよい会にしていきたいと挨拶。

続く議事では、20年度事業報告・決算、21年度事業計画・予算（案）を承認・決定した。また、任期満了に伴う役員改選では加藤義光会長（株）加藤組・男鹿市）、能登信一副会長（西村土建（株）・能代市）、齋藤實副会長（伊藤建設工業（株）・横手市）を再任、委員から新副会長として小原将司郎委員（秋田振興建設（株）・大仙市）を選任した。

（財）建設業福祉共済団から

建退共秋田県支部から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

## 冤罪

菅 禮子

「いいかげんに白状したらどうだ！」

刑事が取調室で被疑者に対してよく用いるせりふである。冤罪で十七年間、刑務所につながれた菅家さんも、度々こんな文句で自白を強要されたことであろう。

TVドラマで、同じせりふを俳優扮するところの刑事が机を叩いて怒鳴っているのを耳にして、ふと胸の奥でキリキリと痛むものがあった。同じ言葉を昔、浴びせられたことがある。

小学校四年の時、担任のU先生が結核のため長期休職をされ、級は二つに分けられて三組と五組に編入されることになった。わたしは五組になったが、編入第一日目にいきなり算数のテストがあった。なにしろ一ヶ月間というもの自習々々の日々であったから、学習内容がひどく遅れていた。どの問題もチンプンカンプンである。返された答案の点数は、六十三点だった。次の休み時間に教員室に、隣席のHさんと一緒に来るようにと言いつけられた。でっぴりと肥った五組の担任のI先生は縁の厚いメガネの下からわたしたちをにらみながら「どっちが見た？」と仰せられた。

Hさんの答案はわたしと同じ六十三点、しかも答案を間違えたヶ所もまったく同じだというのである。はじめ、なんのことかわからなかった。すると、いきなり並んで先生の前に立っていたHさんが声を発した。

「わたしは見ていません！」きっぱりとした口調だった。「では君なんだな、隣の人の答案を盗み見て答案を書いたのは」I先生がわたしの顔を見すえて言った。

「……」返事ができなかった。代わりに涙がもくもくと湧き上がって、あたりが見えなくなった。先ずいで未だとったことのない六十三点という点数が情けなく、みじめだった！

しかも一年生からずっと自他共に認める優等生の身が、今、教員室のお白州にひき据えられてカンニングをしたと問いつめられている…頭に血が昇ってその上屈辱の激情に声が出ない。ただ涙を流すのみである。

「見たのなら見たと正直に言え！」

「……」涙の中で床の板目だけが見えていた。その時なのだ。

「いいかげん白状したらどうなんだ！」

I先生はそう仰言ったのである。

犯人の判然とせぬまま始業のベルが鳴ってようやくお白州から解放された。教員室を出ると旧四組の子供たちがズラリと並んでいた。心配して来てくれていたのである。

「どうしたの？ネ、なにがあったの？」

口ぐちに問いかける級友たちにHさんが言った。「—さんがテストの答え、人を見ないというのに先生は見たとおっしゃるのよ」

ゲクゲク鳴咽しながらも、胸の奥でわたしはそのHさんの名演技に恐怖をさえおぼえた。

次からのテストの時、Hさんは腕を殊更高くしてテスト用紙を囲っていた。つまりは、このわたしにテストを盗み見されないようにという意思表示を周囲の人に見せつけるためであったのであろう……しかし結果は明々白々であった。以後、わたしは腹立ちまぎれに百点を取りつづけたからである。I先生もわかれたのであろう四組・五組をとりまぜて編成した班の班長にわたしを任命されたのだが、子供心にわたしを犯罪人のようにはずかしめたI先生を一生許さないと心に誓った。

そのときの様子を再現してあれこれ追憶する中不思議にHさんについては怒りも憎しみの感情も湧いてこない自分に気がついた。かえっていきなり習っていない問題を出されて、ついわたしの答えを盗み見して書いた時の、追いつめられた、それこそ藁にでもすがりつきたかったその心情を思いやると、憐びんの情にさそわれる。自分の罪をひた隠して「わたしは見ていません」きっぱり、はっきり言いきった彼女が、どんなに必死の思いでそう言ったのか——思えば哀れである。

ただ情けないのは自分だ。なぜ、その時泣いてばかりいないで「絶対！わたしも見ていません」ときっぱり堂々と見えなかったのか……

やっぱりネ！思いあたってわたしは思わずニンマリ納得した。まさしく我こそは“口が重い”と言われる東北人の血を承けているのだ！と。

Hさんはその後女学校二年（現高校）の時急性盲腸炎で亡くなられた。それ以前にも彼女は小学校一年の時に電車で轢かれたことがある。色の白い、ふっくらした丸顔で、赤いワンピースに青々とした坊主頭のその当時は他級の女の子の姿を、奇異の思いで見っていたわたしは、やがてその奇禍を知った。頭に受けた傷の治療のため、髪の毛を刈られていたのだった。彼女の卑劣極まりない言動に対してわたしが寛大なのは、このような悲運に見舞われつづけた彼女の幸薄く短かった半生を悼む気持ちが底にあるのかもしれない。

彼女はどんな時にも必死にけん命に生きようとしていたのだ。許してやろう……と。ついでに先生も。

菅家さんのご出身地がどこかは知らないが、このひとも口下手なのではなからうか？——刑事に問いつめられ畳みこまれて、なんと申し開きしたらよいか、言葉の出でこない状態というのがよくわかるような気がする。